



# 第2章 まちづくりの目標

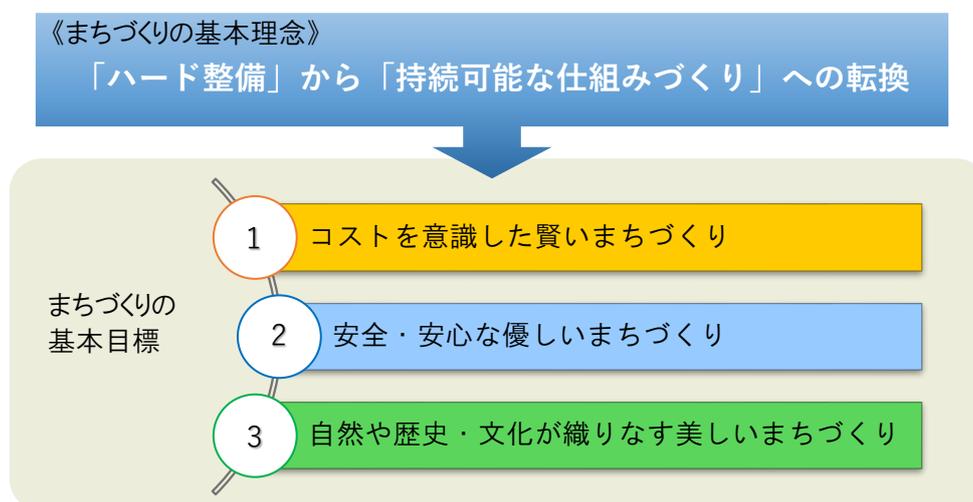


## 第2章 まちづくりの目標

### 2-1 まちづくりの基本目標

人口の増加が難しい状況下において、拡大型の都市基盤の整備を続けると、インフラ整備費や維持管理費の増大によって将来の財政を圧迫する懸念があるため、今後進展する人口減少・高齢化へ対応した集約型のまちづくりへ転換を図る必要があります。また、人口減少が続く中、多様化する住民ニーズに応えながら、鹿角市総合計画で掲げた将来都市像を実現していくためには、これまで以上に行政と市民、企業とが「共動」による新たな仕組みづくりに取り組んでいく必要があります。

以上を踏まえ、都市形成においては「ハード整備」から「持続可能な仕組みづくり」への転換を基本理念とし、時代の潮流やまちづくりの課題などへの対応を目指して、3つの基本目標を設定します。



#### 基本目標1：コストを意識した賢いまちづくり

人口減少や少子高齢化に対応した、コンパクトで効率的な都市構造を目指すとともに、行政と市民が共に知恵を出し合いながら持続可能なまちづくりを進めます。

#### 基本目標2：安全・安心な優しいまちづくり

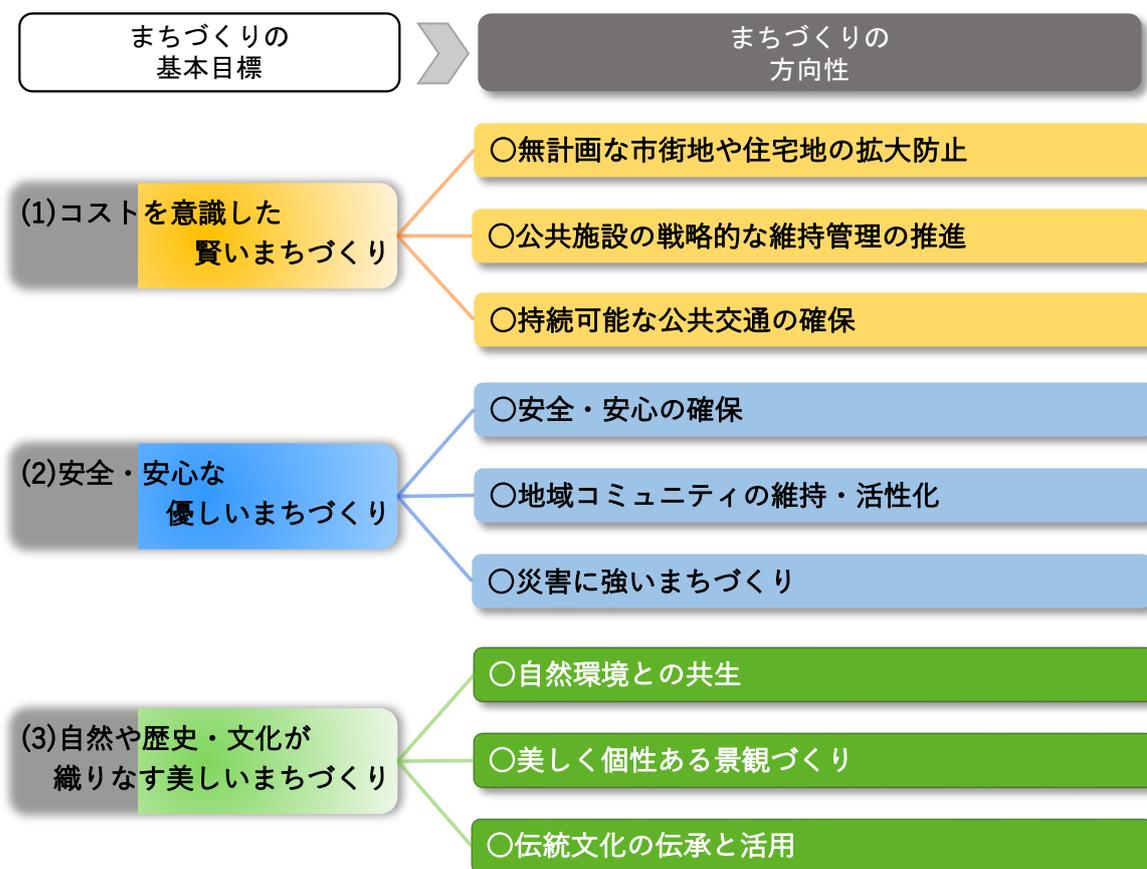
高齢者をはじめすべての人が安心して暮らし続けていけるよう、地域コミュニティの維持やバリアフリーの推進のほか、自然災害に備えた防災・減災対策の推進など、行政と地域とが連携しながら安心して暮らせるまちづくりを進めます。

#### 基本目標3：自然や歴史・文化が織りなす美しいまちづくり

十和田八幡平国立公園をはじめとした自然や田園風景など豊かな自然資源のほか、地域が受け継ぐ伝統文化や歴史遺産など個性ある歴史資源を活用したまちづくりを進めます。

## 2-2 具体的なまちづくりの方向性

まちづくりの基本目標に対応するまちづくりの方向性を次のとおり定めます。



### (1) コストを意識した賢いまちづくり

#### ①無計画な市街地や住宅地の拡大防止

○まちが広がることにより、市街地での空洞化の進展やインフラの維持管理コストが高くなることから、無計画な宅地化などを抑制したコンパクトなまちづくりを目指します。

#### ②公共施設の戦略的な維持管理の推進

○人口規模に応じた公共施設の集約や再編等を目指します。  
○計画的な点検や修繕等の取り組みを進めることにより、公共施設の維持管理経費の削減と安全で強靱なインフラシステムの構築を目指します。

#### ③持続可能な公共交通の確保

○市民の生活や交流活動に欠かせない移動手段を維持していくため、将来に渡り効率的で使いやすい公共交通の構築を目指します。

## (2) 安全・安心な優しいまちづくり

### ①安全・安心の確保

- 放置された空き家の倒壊や犯罪の誘発を防止するため、空き家の適正管理を推進します。
- 高齢者や障がい者、妊婦などが負担なく移動できるバリアフリーのまちづくりを進めます。

### ②地域コミュニティの維持・活性化

- 地域の様々な課題に対応し、共助の核となっている地域コミュニティの維持・活性化に取り組めます。

### ③災害に強いまちづくり

- 地震や台風、水害、土砂災害、雪害等の自然災害に備えた対策を施すとともに、がけ地など災害危険性の高い区域への居住抑制などを進めます。
- 積雪や凍結などへの対応により、冬期間でも安全な暮らしの確保を目指します。
- 災害時に備え、避難路となる道路の点検のほか、避難場所となる公共施設の機能等について点検します。

## (3) 自然や歴史・文化が織りなす美しいまちづくり

### ①自然環境との共生

- 自然と共生し、地球温暖化対策にも配慮しながら、住みよい住環境づくりを進めます。

### ②美しく個性ある景観づくり

- 自然景観や田園風景、歴史ある街並みなどを景観資源として保存活用します。

### ③伝統文化の伝承と活用

- お祭りや民俗芸能等の担い手の育成を支援するとともに、伝統文化を活用した地域間交流を進めます。



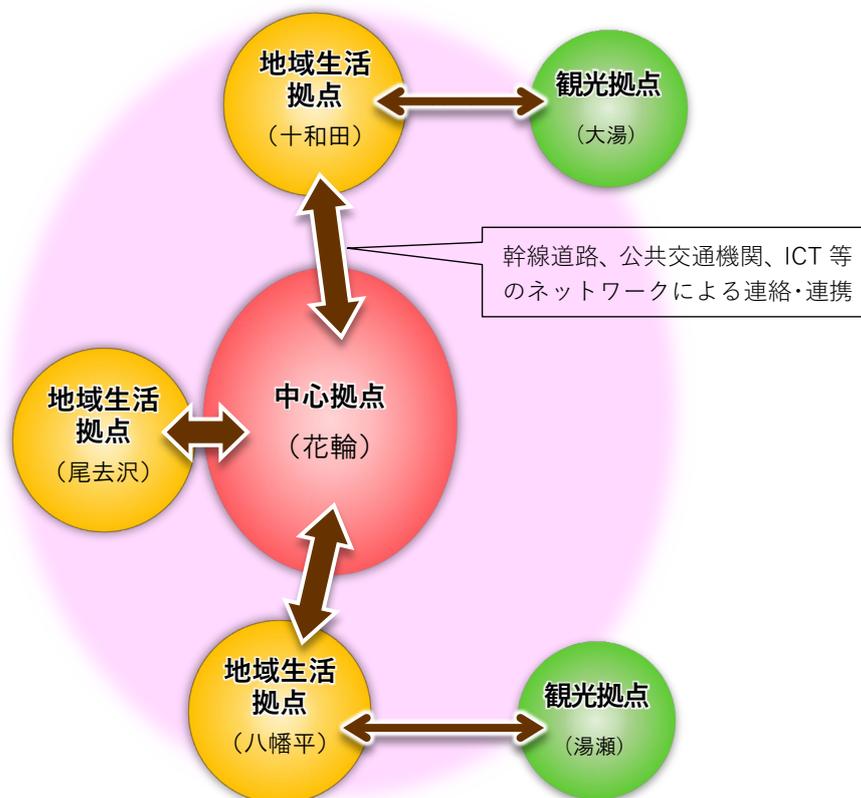
2-3-1. 鹿角市版集約型の都市構造の概念

人口減少と少子高齢化が進行する中、地域全体での活力の維持・向上を図るための持続可能なまちづくりを進めていくことが求められています。

そのためには、高次の都市機能を優先的に配置する「中心拠点」と、地域の特徴に応じた都市機能と日常生活に必要なサービス機能を維持していく「地域生活拠点」、賑わいや観光交流の資源や機能を更に高める「観光拠点」とを位置づけ、機能の分担や整備等の方針付けを行います。

さらに、現在の比較的まとまっているコンパクトな都市構造を基本として、無計画な宅地化の抑制や緩やかな街なか居住への誘導を図ります。

また、公共交通機関の充実やICTの活用、地域コミュニティの連携等により、各拠点や都市機能の連携強化を図ることで、集約連携型の都市構造を目指します。



鹿角市版集約型の都市構造（拠点配置と拠点間連携）の概念

## 2-3-2. 鹿角市の将来都市構造

### (1) 拠点の配置

基本的な考え方	<p>市内に4つの生活の拠点を位置づけ、各地域の生活環境や地域コミュニティを維持するよう緩やかな居住の誘導を図るとともに、拠点の中心には地域特性に応じた都市機能の集約化を図る、コンパクトなまちづくりを拠点ごとに展開します。</p> <p>また、高次の都市機能が集約する中心拠点と地域生活拠点及び観光拠点間を、幹線道路網と公共交通ネットワークで結ぶことにより、拠点間の連携強化を図ります。</p>
---------	---

#### ①中心拠点

- 本市の中心市街地を有する「花輪地区」を位置づけます。
- 中心市街地、国道282号沿道などに商業機能や集客機能、市役所などの行政機能が集積する本市の賑わいと交流の中心となる拠点を形成します。
- 各種都市機能が身近に立地する生活利便性の高い居住環境を、拠点内に誘導・形成します。

#### ②地域生活拠点

- 「尾去沢地区」、「十和田地区」、「八幡平地区」を、地域における生活の中心地として位置づけます。
- 各地区には、地区の特性に応じて、商業や行政などの一定規模の生活利便施設や地域コミュニティのための施設が集積する生活の拠点を形成します。また、拠点内には地域資源を活かした観光などの来訪者のための機能を備えるものとします。
- 周辺の農地を含めた自然環境と共生し、これまで培われた地域固有のコミュニティが息づく居住空間を維持します。

#### ③観光拠点

- 主要な観光資源のある「大湯地区」、「湯瀬地区」を位置づけます。
- 自然・歴史・文化・温泉などの地域資源を活かした観光等、来訪者をもてなす機能を備えた拠点を形成します。

### (2) 都市軸の配置

基本的な考え方	<p>高速道路、主要な幹線道路及び鉄道などの軸を位置づけ、市内の拠点間や広域的な圏域間を繋ぎ、人々の生活や交流、都市の産業経済などの様々な活動を支えるよう効率的なネットワークを形成します。</p>
---------	--

#### ①広域都市間連携軸

- 「東北縦貫自動車道」を位置づけます。
- 産業、観光、交流、広域防災等の各種の都市活動を支える機能を有します。

#### ②骨格形成軸

- 主に南北方向の軸を形成する「国道282号」、「国道341号」、主に東西方向の軸を形成する「国道103号」、「国道104号」及び「JR花輪線」を位置づけます。
- 東西方向及び南北方向の都市の骨格を形成するとともに、近接する周辺都市を結ぶ交流・連携機能を有します。
- 市内において、拠点間を機能的にネットワークするとともに、鉄道やバスの公共交通を活用して、鹿角市版集約連携型のコンパクトなまちづくりを担います。

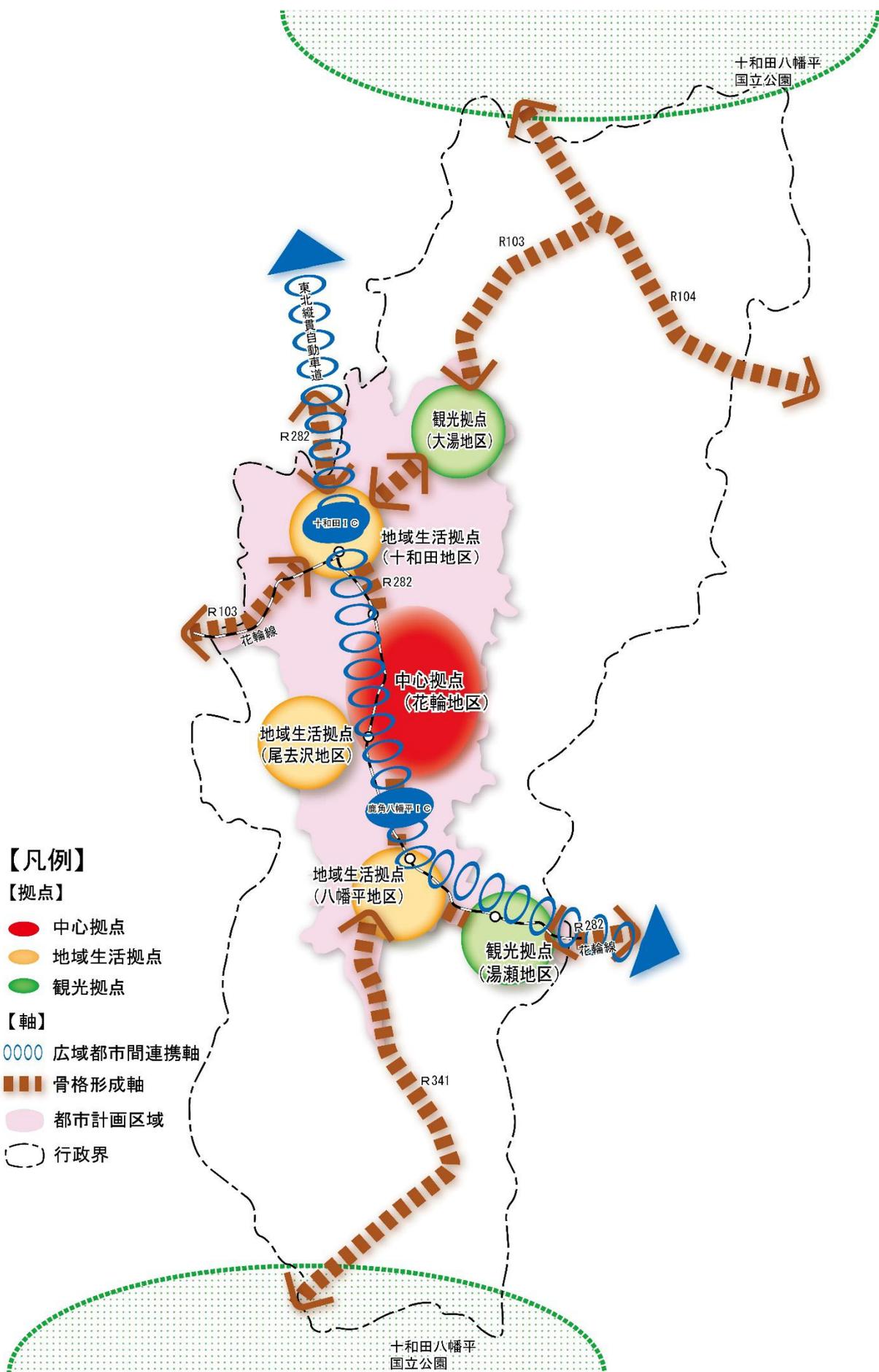


図 将来都市構造